



## 復活節第3主日 (ヨハネ 21:1-19)

あなたは第三の薬を受け入れますか

今回の辞令で上五島の浜串教会から田平教会へ赴任してまいりました中田輝次（ナカダコウジ）神父です。どうぞよろしくお願ひいたします。昭和41年の3月12日生まれ、平成4年3月17日の信徒発見の日に司祭に叙階されて、24年目を歩んでいるところです。

上五島を出るときに、先輩後輩からそれぞれ念を押されてきました。先輩からは「田平教会の人たちはまじめだから、あなたがふだん言っているおやじギャグとか冗談は言わないように。信者から呆れられるよ」と言われました。

後輩からは、「先輩は1週間に8日釣りに行きたい人だけでも、赴任した翌日にボートを手に入れてさっそく釣りに行ったりしたらダメですよ」と言われました。ご忠告はありがたく聞きまして、「ヘイヘイ」と聞き流して出発しました。ただ一つ、冗談がどれくらい通用するかが心配です。

わたしは現在、薬を3種類服用しています。1つは生活習慣病予防健診でコレステロール値が引っ掛かり、これを抑える薬です。2つめは何年か前に通風の発作が来て、それ以来尿酸値を抑える薬を服用しています。これらは毎日です。

3つめの薬は、これ以上禿げないための薬です。薬の名前は壱岐ゴールドとか、黒白波とかです。これは保険がきかない高い薬です。最後の薬は効果があっているのか自信がありませんが、保険もきかない高い薬だから、きっと効果があると信じて時々服用しています。

さて福音朗読ですが、復活したイエスが七人の弟子に現れ、大漁の奇跡を体験させる場面でした。イエスが、「子たちよ、何か食べる物があるか」(21・5)と声をかけた時、「ありません」と答えるしかなかったようです。この時点で弟子たちは漁師としての知識を総動員して漁をおこなっていたはずですが、たとえるなら、最初わたしが話しました「効果が認められる薬をきちんと服用して手を尽くしている」と同じです。しかし劇的な変化は起こりませんでした。

そこでイエスは、新しい声をかけました。「舟の右側に網を打ちなさい。そうすればとれるはずだ。」(21・6)それはベテラン漁師が考えもしなかったこと、経験や知識にない指示でした。これはつまり、第三の薬、第三の方法です。

「舟の右に網を打ちなさい」という指示は、必要ないと言えれば必要ありません。指示通りにしても大漁に恵まれるとはとても思えません。信じないという選択肢もあったでしょう。けれども弟子たちは、「それをして何かが変わるの?」という指示に、素直に従ったのです。

状況は劇的に変化しました。変わらないはずの状況が変わりました。これは一つのしるしです。わたしたちの生活に、変わらないはずの状況を変える第三の薬、第三の方法は、イエス・キリストにあるということ

です。イエスの御言葉を、心を開いて素直に受け取る。ここに、わたしたちの置かれている状況をすっかり変える鍵があるのです。

わたしたちの生活を振り返ってみましょう。ふだん、第一の薬、第二の薬は、誰に言われなくても気掛けて服用していると思います。健康維持のために病院から出されている薬とか、生活を豊かにする手段をふんだんに取り入れていることでしょうか。しかし、第三の薬、第三の方法についてはどうでしょうか。つまりイエス・キリストからいただく恵みを取り入れて、本当に価値ある生活を手に入れようとしているでしょうか。

「信仰のために時間をかけて、生活が本当によくなるの？」と思っているかもしれません。「利くか利かないか分からないものに時間もお金もかけたくない」と思っているかもしれません。失意の底に沈んでいた弟子たちもそうでした。それでも弟子たちは、第一の手段第二の手段と、あらゆる手を尽くして何も変わらなかったのだから、第三の方法、第三の薬にかけてみたのです。

わたしが言うことができるのはここまでです。弟子たちは第三の方法、第三の薬であるイエス・キリストの言葉に従い、劇的な変化を体験しました。わたしも、たとえば病者の塗油の秘跡を授けて、イエス・キリストの恵みに信頼を寄せた人が死の淵から生還するのをこの24年で3人見てきました。あなたはどうしますか？わたしが言えるのはここまでです。

もし、親子の信頼関係が第一第二の方法で深まっていかないとしたら、イエス・キリストにより頼むという第三の方法、第三の薬は考えてよいと思いませんか。もし夫婦の関係がぎくしゃくしていて、第一第二の方法で互いの信頼が深まらないとしたら、イエス・キリストにより頼むという方法は、試してみるべきではないでしょうか。

信仰は、変わらないものを変える第三の方法、第三の薬だと思いません。信仰に興味のない人もいますから、必要ないと言えれば必要ありません。イエス・キリストにより頼むことがただちに目に見える効果をもたらすとはとても思えません。信じないという選択肢もあるでしょう。それでもわたしは、「それをして何かが変わるの？」というこの第三の薬、第三の方法であるイエス・キリストを皆さんにお示ししたいのです。

家庭での祈り、主日のミサはもちろん平日のミサ、聖母月など季節ごとに行われる信心業、個人的な聖書の朗読、ゆるしの秘跡などの諸秘跡、これらはどれも、イエス・キリストに源を置いた第三の方法、第三の薬です。皆さんはこの保険のきかない薬を手に取りますか、手に取りませんか。

復活したイエスはあらゆる手を尽くしても状況が変わらないで失望している弟子たち、失望している現代のわたしたちに声を掛けてくださいます。わたしたちの耳には「それをして何になるの？」と聞こえるかもしれません。あえてその問いに答えましょう。復活したイエスにより頼む人は、必ず報われるのです。